

目
標

■研究活動（フェーズⅠ：実践）

- ①スポーツクラブの本格的運用とITを用いたスポーツ指導法の効果を検証する。
- ②女性の運動・スポーツ実施状況や阻害要因の明確化と、女性参加者限定のスポーツ教室の効果を検証する。
- ③天理市におけるスポーツ関係者のネットワーク構築とスポーツ事業への参画の啓発を行う。
- ④若年者を対象とした体力及びスポーツ遂行能力向上のためのトレーニング介入を行う。
- ⑤「運動指導アドバイザー」による住民への運動啓発効果と体力への影響を検証する。
- ⑥障がい者が生活を営む上で必要とするストレングスとしてのスポーツ・運動と、その効果を明らかにする。

■ブランディング戦略【ブランディングの周知】

本研究事業の内容を学内外に広く周知し、大学の取り組む姿勢をアピールして、ブランドのイメージ化を重点的に周知につながるよう積極的な広報活動を行う。

実
施
計
画

■研究活動

【地域スポーツ研究チーム】

- ①スポーツクラブの指導の中で生じた課題や問題点、指導上の躓きを共有・整理し、指導実践の事例として解決を図る。指導現場で即座のフィードバックに用いるタブレット等のITを活用し、効果的な指導法を検討する。
- ②天理市の女性（20歳代～50歳代）に対して、スポーツ・運動の実施状況や阻害要因に関するアンケート調査を行い、現状を把握して課題を抽出する。
- ③天理市のスポーツ関係者と本学との連絡協議会を設置し、ゴールドンスポーツイヤーズ（2019年～2021年）に関する「する」「観る」「支える」スポーツ振興のあり方を検討する。

【健康づくり研究チーム】

- ④前年度と同様に教育委員会と連携して、天理市内の中学生を対象として、スプリントやジャンプ能力を改善するトレーニング介入を検討する。また、天理市地域の若年者のスポーツ・運動活動への参加状況を調査する。
- ⑤天理市にモデル地区を設定し、運動指導アドバイザーがリーダーとして一緒に運動した市民の体力向上への影響を検討する。
- ⑥前年度の検証を踏まえ、ストレングスとしてのスポーツ・運動の役割を障がい者が生活を営む上での自立要件の観点から検討し、支援の手法を明らかにする。

■ブランディング戦略

本年度はブランディングの周知が目標であるため、各ステークホルダーに対して事業の取り組み状況が浸透しているか、自己点検評価の結果を元にブランディングの方向性を確認する。

■目標達成度の測定方法

本事業の周知はHPアクセス件数、オープンキャンパス参加者数、本学からのコンテンツ配信数を指標として目標達成度を測定する。